

会員と千葉県連盟をつなぐ

# ちばニュース

2016年 9月号



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpin Federation

2016年 9月1日発行 通巻281(毎月1回発行)

千葉県連 創立 50 周年

全会員の参加で祝おう!

## 9月号目次

・ 目次	2
・ 6会合同会議報告	3
・ 今年の富士山	6
・ 50周年記念集会案内	8
・ 全登研案内	9
・ ゆう 7月支援活動報告	11
・ ゆう 植樹祭案内	12
・ 県連たより	13
・ 県連予定表	14

### 表紙説明

本誌12ページで案内の、「ちば労山ゆう」の支援活動の記念植樹を行う谷川浜「洞福寺」の本堂です。

「ちば労山ゆう」の想いを込めた「さくら」が、訪れた人を迎えてくれると思います。

## 6会・県連理事 合同会議報告（議事録）

今回の会議の目的は、6月25日（土）に実施した、県連理事・会代表者会議で確認された役員選出に関する、ルールづくり、そのルールにもとづき欠員役員の選出を行うものです。

- 1、 実施日 2016年7月14日（木） 19時より
- 2、 実施場所 県連事務所
- 3、 議題 ① 千葉県連役員選出に関するルールづくり  
② 千葉県連欠員役員の選出
- 4、 参加会・参加者（敬称略）
  - ① 千葉こまくさハイキングクラブ 会長・古瀬 健 県連理事・三辻 勝
  - ② ちば山の会 会長・平野 直子 県連理事・斎藤 一郎
  - ③ 松戸山の会 会長・桑原 年一 県連理事・丸山 宏
  - ④ 船橋勤労者山の会 会長・石川 昌 県連理事・桜庭 実
  - ⑤ ふわくハイキングサークル 会長・中原 紀代治 県連理事・佐藤 勝子
  - ⑥ 東葛山の会 会長・安彦 秀夫 県連理事・高見 信明役員参加者 古瀬 健 顧問（こまくさ代表者と兼任）・広木 国昭 会長  
鶴田 秀雄 副理事長 桑原 年一 ハイキング委員長（松戸山の会会長と兼任） 菅井 修 自然保護委員長
- 5、 議事録（筆記者 菅井 修 自然保護委員長）
  - ① 進行 開会挨拶 鶴田 秀雄 副理事長
  - ② 本日の会議の経緯について説明。（広木会長）
    - ・ 7月25日の県連理事・会代表者会議において、役員選出のルール決定・欠員役員選出に関する説明（会議資料、ちばニュースより）
    - ・ 上位6会の選出は、6会の会員数が、県連全会員数の73%になるため
    - ・ 6月の役員会で、当日役員は極力進行には参加しない。司会も参加者の中から選出していただく事とした。（鶴田副理事長より）
  - ③ 以下発言メモより

### ☆ 自己紹介後、司会進行を古瀬氏にお願いする

- ◆ 司会者 こまくさの話を中心に、役員選出のルール作りといってもどんな仕事かなかなかつかめない・・・困っている。

例 理事長 理事会の統括 役員会、理事会への出席 中身は理事会への内容と思われる。それ以外がなかなかつかめない。事務局長どんな仕事かちばニュースや機関誌委員会はあるが、はっきりしない  
当会では、会の部長、副部長経験者を県連に送るという慣習がある。  
会の人事との関連ですぐにとはいかない。10月以降までには何とか当会内の仕事表の様なものが県連でもほしい。

- ◆ 実際の役割・仕事が充分わかっていない。役割の資料がほしい。  
それに基づきマニュアルの作成も必要。
- ◆ 実際の仕事・イメージがわからない。県連の役員が作ってほしい

- ◆ 役員不足を自分の問題としてとらえていない。会員にはすべて伝えてあるが会としては沈黙、個人の意見としては 地域的な事も・・・いろいろ考えて選んでほしい。6つの会は 自分たちには関係ないと言うように見える。しかし、6つの会内で出さざるを得ない。千葉に近い会、人から。
- ◆ 持ち回りでやるしかない。当会からはもう一人出せるのではないか。しかし、すぐと言う訳にはいかない。現在、理事長という形は出せない。
- ◆ 当会は、地理的に無理
- ◆ 当会は、地域を持たない会です。年齢的にもすべて高齢化進行中  
平均年齢 71.3  
50代 3      60～65 10      65～69 10  
70代 ほとんど役員      75以上 17 役員を引き受ける人がいない。
- ◆ 理事1年目でピンとこない。運営委員会でも充分話し合っていない。当会は35周年にあたるが 30-35年間の入会者が50%程で 県連の役割まで意識がいかない。30分程、県連に出ている人からの説明があったが、地理的な事からも問題だ。
- ◆ ルールを決める事、仕方が無いのかな。
- ◆ 出来そうな人を説得するしかないのか、会議の回数を減らす事も考えなければ。役員・会議を減らした上で持ち回りも考えないと。
- ◆ 会議の場所だが、なぜ西部公民館でなければならないか。県の中心、交通の中心は鎌ヶ谷ではないか。鎌ヶ谷近辺を会場にすれば東葛地域の地理的制約が無くなる。
- ◆ 東葛地方で会場がとれない。話し合いの中で会場は他の場所でも

#### ☆ 次に県連の活動についての議題に移行

- ◆ 県連がどう受け止められているか、  
新人訓練 雪山・・・等出た人は良かったといっている、出していない人に対し何で県連に入っているのか、県連の役割を発信していかなければ。特に若い人に対してお金は何に使っているのかという疑問もある。
- 1. 若い人の発想を取り入れなければ、若い人を取り込めない。  
そこから若い人の役員が出てくるのでは。
- 2. 多くの会では 若い人は限られている。35歳以下で企画し、彼らの発想で山行を、県連の若い人の集まりに出た人に連絡したらどうか。
- 3. 県連には何かをやってもらいたい。例 岩、沢、スポーツクライミング等の講習、若い人達の興味が多様化している。  
ルール作りと同時にこのような事をやったらどうか。魅力ある県連作りをやっていかなければならない。

#### ☆ 本論の役員選出のルール作りに移る

- ◆ まずルール作り、理事長、会長、事務局長でどう作るか。
- ◆ それなりの仕事があるのではないか。
- ◆ ルール作りでやっていくしかないのではないかと思う。

- ◆ 6会に限定するのではなく、大+小のグループという意見もあった。
- ◆ 6会でやるしかないのではないかと、理事長は理事の中から選出する。
- ◆ それが出来ないから今日の会議がある。会員構成も考慮する必要があると思う。
- ◆ 1本づりはなかなかできない。会の役員をやっている中で出る可能性が出てくる。いま、いろいろな有望な人が入会してきている。当会は5年のうち3年間は会の運営に携わるルールがある。その後という中々すぐには出せない。当会からどこか1つは出したい。  
とにかく、仕事内容を端的にまとめることが必要。
- ◆ 県連の組織構成・具体的な活動内容がわからないので、県連の現状説明や役員選出の話が出来ない。
- ◆ 理事長・会長・事務局をどうするか、ルールをつくり選出して行くしかない。6会に限定するのではなく、6会以外の会からの選出の選択も考慮する。会には、運営・役員選出の考え、ルールがあり、県連役員を選出には考慮が必要と思われる。
- ◆ 県連の会議、役員構成などの見直し・あり方の検討も必要ではないか。

☆次回の合同会議は、9月27日を決めて終了した。

本日 ルール作りの具体化までは行かなかったが、この日の話し合いは、県連の役割、県連活動を各会で更に詳しく伝える事、県連役員の具体的な仕事ができるようにする事が出された。同時に、若い人達にも魅力ある県連活動を考える事、その中で県連役員の協力者を募ること等が話された。

具体的ルールの前に、地理的制約や現在の会の実情から、今すぐに出す事の難しさが出されたが、現実には6つの会でやっていくしかないのではないかと。という事が本日の会議で、6会の共通の理解となったのではないかとと思われる。(筆者)

#### 労山の組織的な問題点 (参考)

- ★ 労山全体の高齢化+若年層会員の役員敬遠(組織離れ)が深刻になっています。千葉県連も2・3の会を除いては、高齢化が深刻な状態です。会員は60代が圧倒的に多く、この年代が70代になった時に大幅な会員減少が想定されます。これは千葉県連に限らず全国的な傾向で、千葉県連以上に深刻な状況な県連ある。新しい会員・若い会員を迎える事が重要です。そのためには、県連組織弱体の要因である、役員を選出・事務局体制の確立が絶対条件です。全会員の参加・協力で問題を解決し、新しい会員を迎えられる組織をつくる事が急務です。
- ★ 最近の入会者、特に若年層の入会者の特徴は、山の会は必要だから入会をするが、自分にとって必要な事以外には参加しない傾向が強い。これは以前からあった事であり、近年は更に複雑で多くなっている。その比率が大きくなり、役員や山行リーダーの高齢化が深刻になっている。その理由は、若年層の入会が少ない事が要因であるが、会運営の中心を若い会員に任せる事も重要である。

## 今年の富士登山

ちば山の会 八角 洋

毎年、富士登山をしています。

五合目からの日帰り登山です。登山のきっかけは、あこがれの北鎌尾根を登るための訓練山行でした。その後は少しでも登山の幅を広げ、高所順応等も出来るよう富士登山を続けてきました。この間、噴火の噂もあり止めようと思った事や、一合目からの登山を考えた事もありました。

十年目の今年、会の仲間から一合目からの登山の誘いがあり、精進湖ルートからの登山が実現しました。五合目からの日帰り富士登山は、1日目、5合目で一泊していました。

今回1日目は、(青木ヶ原樹海)、精進湖ルートから五合目の富士吉田口まで歩き、そこで一泊します。

青木ヶ原樹海からのスタートでしたが、足を踏み入ると苔の山道が目に入ります。山道の広さ、明るさは、これまでのイメージが一変しました。人為的な理由で不幸な印象が定着してしまった樹海が残念です。



精進湖ルートは、要所は石垣でしっかりと山道が整えられており、道幅も広く、ほぼ直線にブナ樹林の中を通り、富士吉田口に繋がります。現在登山者は少ないですが、一合目からの代表的な富士登山道の1つであることが納得できます。けもの道とは風格の違うクラシックルートでした。

2日目、例年と変わらない体調で五合目の朝を迎えましたが、歩行が長続きせず、仲間に励まされてやっと本八合目まで登り、下山ルートの合流地点(3400m□)で皆を待つことになりました。準備不足は明白でした。例年通り五合目で一泊し登山に備えたのですが、富士登山はそれだけではだめです。長く富士登山を続けていると、なぜ登れているかと言う意識が薄れていたのですね。1,000m以下のハイキング、平地のトレーニングだけでは厳しいことに改めて気づきました。これが十年目の富士登山でした。一合目から山頂へはかないませんでした。これまであまり意識していなかった五合目までの富士登山道の魅力を発見しました。自然林の中、山道の歴史に触れ、

静かに先人の富士登山者への思いを馳せることができるのも、精進湖ルートの魅力の発見でした。スケールの大きな登山道の発見ができました。

先日、会仲間の富士登山報告を読んで、登山にはまったく無関心と思っていた親父が、終戦直後3回も富士登山しているのを思い出しました。すべて一合目からの登山である事を最近になって知り、ちょっと驚きました。どこのルートを、何を思いながら登ったか定かではありません。戦争を生き延びた若者たち、我々の親たちにとって、当時、娯楽などなく、富士登山は、確実に達成感の得られる数少ないものであっただろうと思います。富士山に向き合った年齢、時代は違います。今後、親たちと同じ富士登山の道をたどろうとは思いますが、動機だけでなく、自分たちが向き合う富士山とはモチベーションも微妙に違っていた事だけは理解できます。

### ちばニュース・編集部よりのお願い

ちばニュースは、編集から発送まで機関紙委員会の担当になっています。しかし、機関誌委員会は委員がいません。やむなく役員が実施しています。理事会では、やる人がいないなら発行を2月に一回にする、発行を中止にすれば等の意見も出されました。

ちばニュースには、千葉県連50年の歴史がぎっしり詰まっています。県連事務所で各会が当番体制で、白黒ページで各会の会員数に合わせて500部・600部を印刷し発送していました。現在は、パソコン時代の影響で、PDFで各会に配信しています。

メールで送られたちばニュースを、印刷して会員に配布している会やホームページにアップしている会などがあります。県連のホームページでは2011年1月から見る事が出来ます。

現在のシステムで一番気になるのは、会員にどの位届いているのか・読まれているかが気になります。

ちばニュースは、会員と千葉県連をつなぐ機関紙です。内容を充実すると同時に、いかにして全会員に届けるかが重要だと思います。

#### ◆ 投稿のお願い。

会山行・個人山行・会行事等を送ってください。出来れば写真2枚位

A-4 1~2ページ・明朝12p 余白・左右上下25、ワードで

#### ◆ 投稿・問い合わせ先 (千葉県連会長 広木 国昭)

・携帯 090-8316-2020

・Eメール [danphiro@jcom.zaq.ne.jp](mailto:danphiro@jcom.zaq.ne.jp)

# 千葉労山

## ご案内

# 創立50周年記念交流会

## 仲間と楽しく

## 清和県民の森

千葉県連創立50周年事業のファイナルとして「記念交流会」を実施します。この記念交流会が、創立50周年、最後で最高の事業です。

全会の参加で、創立50周年を喜び、次世代への第一歩を踏み出す記念集会にしたいと思います。

当日の詳細については、実行委員会で決定します。各会から実行委員の選出をお願いします。各会・会員の意見・要望をお寄せください。

宛先：50周年実行委員長 広木 国昭 ([danphiro@zpost.plala.or.jp](mailto:danphiro@zpost.plala.or.jp))

### 実施概要

- |          |   |
|----------|---|
| 1 実施日    | 2017年1月14日（土）13時集合<br>15日（日）12時解散                                   |
| 2 会場     | 千葉県立「清和県民の森」ロッジ村  |
| 3 参加費    | 一人1,000円（施設利用料 320円含）<br>ロッジ使用料（3,350円）県連より補助します。                   |
| 4 実行委員会  | 各会より、1名以上の参加をお願いします。  |
| 5 内容について | ① 創立50周年の歴史を感じ、仲間を感じられる事。<br>② 参加者全員で創り、楽しめる事。<br>③ 楽しい気持ちで、解散出来る事。 |

### 今後の予定

- ・ 9月実行委員会 9月29日（木）19時 船橋市西部公民館
- ・ 11月実行委員会 11月30日（水）19時 船橋市西部公民館

# 第16回全国登山研究集会 実施要綱

日本勤労者山岳連盟

テーマ 日本の登山文化・技術を次世代に継承発展させよう！

——日本勤労者山岳連盟の歴史から学んで——

## 目 的

多様で複雑な社会の中で人々の意識や要求も多様化しており、登山の発展の原動力は、これらの登山要求のなかにあるといっても過言ではない。特定の登山方法・内容を固定化・絶対化せず、厳しい山岳自然環境を舞台にして登山活動を発展させ、創造的な登山をめざすことが「登山の多様な発展」につながることは言うまでもない。このような活動は、地方連盟の会・クラブで実践されている。このように、多様な形態と内容の登山に応じて活動している山岳会、クラブの経験を全国に普及していくことが求められている。

このたび、次のような目的を掲げ全国登山研究集会を開催することとした。この集会では、①山を愛する心と安全に登るための技術を次の世代に継承すること、②会員を含める国民の多様な登山要求に応じて、登山文化を豊かに育むこと、③労山の歴史と経験をふまえて、強固な会・クラブに発展させていくこと——などについて、地方連盟や会・クラブの経験交流を行う。テーマごとに分科会を設け、参加者が自由に発言できる場にする。

- 期 日 2016年11月5日(土)～6日(日)
- 場 所 国立オリンピック記念青少年総合センター  
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号  
電話 03-3469-2525  
(新宿駅から小田急線 参宮橋駅下車 徒歩約7分)
- 集 合 初日 国際交流棟2F 第一ミーティングルーム 13:00～受付  
6日 センター棟4F 415 8:30～受付
- 参加対象 労山会員および全国の登山者
- 主 催 日本勤労者山岳連盟 全国登山研究集会実行委員会
- 日 程 5日 13:00 受付  
13:30 開会あいさつ  
13:40～15:00 講演 登山文化・技術を次世代に継承するために、  
労山の歴史から学ぶ(仮題)  
15:00～15:20 休憩  
15:20～16:00 映像で見る労山のこれまでの活動と現状について  
16:00～17:00 報告 地方連盟の活動状況  
17:00～18:00 夕食

18:00～20:00 地方連盟および加盟団体からの報告  
20:00～ 宿泊施設で各自交流

6日 7:00～8:00 朝食  
9:00～12:00 分科会、ハイキング集会  
12:00 分科会・ハイキング集会ごとに解散

※分科会は、①山行管理と登山技術・遭難対策、②山岳会・クラブの運営と組織強化、③会員拡大のHPの活用や未組織登山者を対象にした登山学校の開校、④会報の発行体制と「登山時報」の活用、⑤若手（40歳未満）交流集会——などを予定している。

費用 1. 一泊二食 での参加 5,000円  
2. 日帰りの参加 一日でも二日でも 500円（資料代）  
宿泊 国立オリンピック記念青少年総合センター宿泊棟

問い合わせ先 全国連盟事務局 TEL 03-3260-6331  
FAX 03-3260-6331 E-mail jwaf@jwaf.jp  
参加申込締切 10月25日（火） 別紙にて全国連盟事務局まで

#### 全登研（全国登山研究集会）・参加のお願い

千葉県連 会長 広木 国昭

“全登研”・あまり馴染みのない、聞いたこともない会員も多いと思います。当然です、16年ぶりに開催されるとの事です。では、なぜ今全登研なのか？その背景は、今年2月の全国総会で、労山の組織状況が深刻になったとの報告がありました。加盟団体・622、会員数は19,985名となり2万人を割る深刻な状況になりました。そして、60歳以上の会員数は64%と過半数をこえている。

千葉県連は、会・クラブ・会員の頑張りで、10年間現状を維持しています。この様な中、登山技術の継承、登山文化の発展、労山の歴史に学び会・クラブの発展を目的に開催されます。

しかし、登山文化とか登山技術の継承などは、固い・難しい・などのイメージが強く参加しようとは思わないでしょう。

これらの表現は、全国集会のタイトルであり、より高い目標の設定です。

会・クラブの仲間とハイキングや登山を楽しむ中で、先輩から登山技術・事故対応などを教えられて来ました。また、会・クラブの運営にも参加して来ました。そのような経験を聞いたり話したりするための全登研です。

会場は、千葉から近い小田急線・参宮橋駅下車・東京オリンピックセンターです。5日・6日どちらか、1日の参加でも結構です。

会・クラブ仲間と誘い合って、ぜひ参加して下さい。

◆ 問い合わせは 千葉県連・広木までお願いします。

Eメール : [danphiro@zpost.piaia.or.jp](mailto:danphiro@zpost.piaia.or.jp)

## ゆう便り No.21

1. 日時 2016.7.8(金)夜～10(日)
2. 参加 16名
3. 活動場所 牡鹿半島・谷川浜
4. 宿泊場所 谷川浜・渥美家作業所
5. 活動内容

今回もホヤ養殖の準備作業である牡蠣殻に紐を通す「殻っ子刺し作業」を2ヶ所に分かれて行った。作業内容は今までに報告していることばかりなので、ここでは新たな取り組みである「記念植樹」に関する報告をしたい。

ゆうの支援活動も母体である千葉県勤労者山岳連盟の時も含めると5年目となる。そして、この谷川浜にはひよんなきっかけで2012年の7月から関わるようになってちょうどまる4年になる。この間、21回にわたり延べ358名の方が活動に参加してくれた。はじめは片道500kmの距離がとても遠く感じた谷川浜への道程も、足しげく通うようになるにつれ、だんだんと地理的な距離のみならずとても身近な場所となってきた。メンバーのなかには第二の故郷と感じている者も多い。

谷川浜は震災以前は51戸の小さな集落であり、小さいがゆえに震災ではほとんど報道されることなくきたが、それが却って我々の感性には合っていたのだろう。また、漁師さんの気さくな人柄が私たちを引き付けていたのだろうとも思う。

小さな集落を襲った大津波、1戸のみを残してすべて津波の犠牲になってしまった。亡くなった方は24名である。縁もゆかりもなかった谷川浜であるが、この4年間の、房総半島と牡鹿半島を結ぶ連帯の証として、多くの亡くなった御霊への鎮魂として、この谷川浜の地に記念樹を植えたいと思うようになってきた。場所はいろいろ検討した結果、地域の菩提

寺である洞福寺がよいだろうとなった。洞福寺自体も津波で流失してこの春に本堂と山門が場所を高台に移して再建されたばかりである。山門も流されたものの、かろうじて屋根は遠い場所で見つかり、新しい山門の屋根として復興している。

洞福寺の住職は石田さんというとても気さくな方である。今回、初めて我々の夕食(交流会)に参加いただいたが、お酒もなかなかいける。こんなことであれば、前から呼びすれば良かったと後悔した。

記念植樹は、これまで支援活動に参加した多くの方々にも関わっていただきたいと、「植樹祭」として来年の3月4日(土)に開催することとなった。詳細は別添のチラシを参照して欲しい。地元の方も含めて、多くの想いがつまった植樹祭になれば、と願う。

(報告:ゆう代表吉田 哲治)



再建された山門

# 谷川浜・植樹祭

～ 桜植樹祭のご案内と募金のお願い ～

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、震源地に最も近い石巻市の牡鹿半島に壊滅的な被害をもたらしました。特に鮫浦湾の奥に位置する谷川浜（ヤガワハマ）は、湾の地形ゆえ23mもの大津波が押し寄せ、51戸あった集落のうち1戸のみを残して流失被害を受け、24名もの尊い命が奪われました。この谷川浜に私達ちば労山ゆうが支援活動に通うようになってまる4年になります。そして、来年の3月に5年という大きな節目を迎えるにあたり、御霊の鎮魂と牡鹿半島と房総半島の連帯の証として、地元の菩提寺である洞福寺に記念樹を植えることにしました。これまで以上に支援の輪を広げたく、植樹祭として開催致します。ふるってご参加ください。



再建された洞福寺本堂

植樹にご協力をお願いします（募金のお願い）

記念植樹の予算としておよそ30万円かかります。

みなさんの暖かなご支援をお願い致します。

一口1,000円 口数は自由です。

お振込先 口座番号：ゆうちょ銀行

00240-8-98419

加入者名：NPO 法人ちば労山ゆう

## 植樹祭バスツアー

日程：2017年3月4日（土）～5日（日）

（植樹祭は4日に開催）

参加費：20,000円（往復のバス代、宿泊費）

募集定員：48名

\* 詳細はちばニュース10月号に掲載予定



問い合わせ先 佐藤勝子

tel/fax 043-306-5238 携帯 090-7631-4837 e-mail k-sato111@asahinet.jp

# 県連たより

## 千葉県勤労者山岳連盟（千葉労山）

- ◎ 県連盟事務所  
〒262-0033  
千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18  
レジデンス幕張台 101 号室  
TEL・FAX： 043-306-1190  
Eメール：[rousanchiba@grape.plala.or.jp](mailto:rousanchiba@grape.plala.or.jp)  
JR総武線幕張本郷下車、海側 徒歩5分  
(県連事務所に常駐者はいません)
- ◎ 千葉県連ホームページ  
<http://www.cwaf.jp>  
県連盟への問い合わせは、上記ホームページ  
事務局への問い合わせまでお願いします。
- ◎ 加盟会会員の事故一報送付先  
教遭委員長・岡田 賢一  
[ken-ichi@f4.dion.ne.jp](mailto:ken-ichi@f4.dion.ne.jp)  
Fax：043-271-4704  
事故一報は、全国連盟事務局にも必ず  
送付の事。
- ◎ 「ちばニュース」原稿送付先  
機関紙委員会・広木 国昭  
[danphiro@zpost.plala.or.jp](mailto:danphiro@zpost.plala.or.jp)
- ◎ 連盟費振込み先  
郵便振替口座 00160-3-481509  
千葉県勤労者山岳連盟
- ◎ 東日本大震災・支援金振込み先  
口座番号：ゆうちょ銀行  
00240-8-98419  
加入者名：NPO法人 ちば労山ゆう  
代表者 吉田 哲治
- ◎ その他、県連盟、全国連盟への、  
ご意見・問い合わせなどは・広木まで

## NPO法人「ちば労山ゆう」

- 「ちば労山ゆう」とは、東日本大震災を支援するために、千葉県勤労者山岳連盟を母体として活動を始めた、被災者支援NPO法人です。
- ◎ 「ちば労山ゆう」への入会は千葉県連盟ホームページから常時入会出来ます。
    - ・入会申し込みは  
<http://www.cwaf.jp/contact/10-2/>
    - ・「ちば労山ゆう」への問合せは  
<http://www.cwaf.jp/contact/09-3/>
  - ◎ 支援活動日のお知らせ
    - ・9月10日・11日 福島
    - ・10月 5日・6日 福島
  - ◎ 支援物資販売活動について
    - ・「ゆう」の財政活動として、支援活動に参加する皆様の、交通費補助に大変役立っています。引き続きご協力をお願いします。
    - ・三陸・気仙沼直送の支援物資は「おさしみわかめ」「さしみこんぶ」「くきわかめ」「すき昆布」「とろろこんぶ」常時用意しています。宅配も、相談下さい。

支援物資に関する問い合わせは  
下記アドレスに連絡を！  
[danphiro@zpost.plala.or.jp](mailto:danphiro@zpost.plala.or.jp)

県連活動予定表

9月		行事予定	10月		行事予定
1	木		1	土	
2	金		2	日	
3	土	関プロ役員交流会(埼玉)	3	月	
4	日	〃	4	火	役員会
5	月		5	水	NPO支援活動(福島)
6	火	役員会	6	木	(平日支援)
7	水		7	金	
8	木	県連理事会	8	土	
9	金	(理事会は8日に実施します)	9	日	
10	土		10	月	
11	日		11	火	
12	月		12	水	
13	火	ハイキング委員会	13	木	
14	水		14	金	
15	木		15	土	
16	金		16	日	
17	土		17	月	
18	日		18	火	
19	月		19	水	
20	火		20	木	理事会
21	水		21	金	
22	木		22	土	
23	金		23	日	
24	土		24	月	教遭委員会
25	日		25	火	
26	月	教遭委員会	26	水	
27	火	広報担当者交流会(予定)	27	木	
28	水		28	金	
29	木	50周年実行委員会	29	土	
30	金		30	日	
			31	月	

発行者：千葉県勤労者山岳連盟

〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18

レジデンス幕張台 101号室

TEL・FAX 043-306-1190 (事務所に常駐者はいません)

発行責任者：吉田 哲治

編集責任者：広木 国昭

問い合わせ先：千葉県勤労者山岳連盟ホームページ 事務局への問い合わせ